



七五三

校長 清水 一司

七五三姿の子どもを目にする時期になりました。七五三は、元々「髪置き（今まで剃っていた髪を伸ばし始める儀式）」「袴着（幼児が初めて袴をつける儀式）」「帯解き（子どもが初めて帯を締める祝いの儀式）」という別々の儀式が江戸時代後期の一つになり、現在の形になったそうです。徳川綱吉が天和元年11月15日に長男徳松の「髪置きの儀」を行ったことにあやかり、この時期に七五三を行うようになったとされています。子どもたちの幸せな未来を願い、家族が子どもの手を取り温かく見守る光景はとても微笑ましいものです。

進路指導にも七五三という言葉があります。こちらは、就職後3年以内に中卒者の7割、高卒者の5割、大卒者の3割が離職する現象を言います。1990年代に問題視されるようになりました。直近の厚生労働省のデータ（令和2年度）によれば、中卒者の52.9%、高卒者の37.0%、大卒者の32.3%が、就職後3年以内に離職しています。以前に比べれば若干改善されているものの依然として高い割合となっています。早期離職もマイナスの要素ばかりではありませんが、企業にとっては人材育成コストが無駄になったり人材不足になったり、また、離職者にとっては転職に悪影響があったり収入が落ちたりと、一般的にはデメリットを指摘されることの方が多くあります。離職理由として中卒離職者は「仕事が合わない」を挙げ、高卒離職者も30.8%が「仕事が合わない」を挙げています（東京労働局職業安定部 学卒就職者の離職状況調査（平成27年3月））。大卒者も43.4%が「仕事が自分に合わなかった」を挙げ、最も多くなっています（内閣府発表 平成30年版子供・若者白書）。中卒、高卒、大卒に関係なく、企業とのミスマッチを理由にした離職割合が非常に高いのです。原因は様々考えられますが、学校から社会・職業への円滑な移行、学校教育と職業生活との接続も一因ではないかと考えられています。

近年、企業の採用意欲が高まり新規学卒採用者数が増加傾向にあります。しかし、だからこそ企業と入職者のミスマッチも起きやすくなるとも考えられます。厚生労働省によれば、新規中学校卒業予定者は1月1日、新規高等学校卒業予定者は9月16日、新規大学等卒業予定者は6月1日が選考解禁日となっています。中学3年生を基準に考えれば、中卒就職選考までは約60日、高卒就職選考まで約1000日、大卒就職選考まで約2400日です。それほど時間に余裕はありません。

本校では「未来(み)くるワーク体験」等の体験的な活動を基盤とした生き方指導としての進路指導・キャリア教育を推進し、日々の学習と将来の生き方のつながりを意識できるようにしています。子どもたちの幸せな未来を願い、私どもは生徒が将来の職業生活も視野に入れつつ主体的に進路を選択できるように指導に努めてまいります。